

# ジェトロ・ ロンドン事務所での勤務



独立行政法人日本貿易振興機構 (JETRO)・ロンドン事務所  
農業・食品チーム ディレクター 飯田 俊平



写真1 職場近くのセントポール寺院

日本貿易振興機構 (ジェトロ) は日本の各都道府県に所在する国内事務所と、70ヶ所を超える海外事務所からなる国内外のネットワークを活用し、日本のモノ・サービスの輸出振興、日系企業の海外進出支援、各国制度等の調査・研究や対日投資の促進に取り組み、経済産業省所管の独立行政法人です。ジェトロの取り組みにおいて、農林水産物・食品の輸出促進は大きな柱の一つとなっており、農林水産省や品目団体から委託等を受け、海外見本市や国内外での商談会の開催、現地情報の発信を行っています。

私の所属するロンドン事務所は英国のみならずアイルランド、スウェーデン、フィンランド、ノルウェー、アイスランドを管轄しており、また、欧州内の海外事務所の統括拠点となっています。そのロンドン事務所において私は食品分野を担当しており、日本産食品関係事業・商談会の運営(写真2)、写真3)、現地の食品関係規制に関する情報発信と個別照会対応、デジタルツールを活用した日本産食品の輸出促進(写真4)などを行っています。英国・欧州の食品市場は、他の地域・国に比べると規制のハードルが高いと言われ、また、日本食への理解度が必ずしも高くありません。その一方で他の地域・国への影響力を持つため、英国・欧州で知名度を上げることが世界戦略に直結するという考えのもと、当地市場に挑戦する事業者もいらつしやいます。そのような事業者の皆様の一助



写真3 スウェーデンでの日本産食材展示・商談会



写真2 英国での日本産食材のPRイベント



写真5 Japan House Londonでの講演 (写真提供: Japan House London)



写真4 英国のオンラインスーパーでの日本食材特集ページ

となれるよう、日々取り組んでいます。

私がロンドンに着任したのは2020年9月でコロナの第一波が収束した頃でした。その後も数回のロックダウン、EUからの完全離脱、コロナ規制の段階的緩和、エリザベス女王の即位70周年、短期間で首相の交代劇、エリザベス女王の崩御など、数々の歴史的場面に立ち会うことができ、その度に英国政府の振る舞いとそれに対する英国の国民の反応に触れることができました。日本に比べると適当に思えるところも多々あるのですが、締めるべきところはきちんと締めて物事を合理的に進め、表現としては「程よく美しい」という印象です。また、様々なスポーツの発祥の地である英国はルール作りに長けていると言われ、食品関連についても複数の認証制度を生み出すなど、分野を問わずその性格が表れています。

普段は食品分野の業務がほとんどですが、森林・木材分野の話題もいくつかご紹介いたします。ロンドンには、日本の多様な魅力を伝える場として外務省が創設した対外発信拠点の「Japan House London」があり、昨年9月から今年1月にかけて「飛騨の匠」をテーマに飛騨高山地域の木工技術や伝統、

歴史を、森林素材や大工道具、木工家具、木製の伝統工芸品などを通じて紹介する企画展が開催されました。その期間中、日本の森林・林業・木材産業について講演する機会をいただき(写真5)、参加者の方々に日本の多様な森林や木材利用に興味を持っていただきました。また、英国でも木材を使用した建築物の整備が盛んに行われており、建築物への木材利用を推進する自治体でCLT<sup>※1</sup>を使った複数の建築物が整備(写真6)されているほか、現地の不動産会社と合弁企業を結成した日系企業が中大規模木造建築物を整備する事例<sup>※2</sup>(写真7)なども見られます。

世界都市・ロンドンには様々な人物・情報が集まるからこそ、そこで差別化する難しさもありますが、市場の特性をとらえながら考え、日本産食材に限らず日本の良さを更に普及できるように取り組んでいきます。

※1 「Cross Laminated Timber」の略。一定の寸法に加工されたひき板(ラミナ)を繊維方向が直交するように積層接着したもの。

※2 住友林業株式会社が英国の Bywater Properties Limited と合弁会社を結成し、「Paradise SE1」プロジェクトにて木造6階建ての環境配慮型オフィスを整備予定。



写真7 ロンドン市内に整備予定の6階建て木造建築物 (写真提供: 住友林業株式会社)



写真6 ロンドン市内のCLTを使った公共施設

